

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 イザヤ書 40:10	讃 美 歌 114 あめなる神には
讃 美 歌 119 羊はねむれり	獻 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 エレミヤ書 31:15	主の祈り 564
マタイによる福音書 2:16~18	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
讃 美 歌 116 よろずの星かげ	祝 禱
説 教 『恐れに背を向けて旅立つ』	後 奏

「ヘロデはヘツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた(マタイ2:16)」。ヘロデは、「ユダヤの王として生まれた方(2:2)」を「わたしも拝もう(2:8)」と言いながら、亡き者にしようと考えた。しかし案内するはずの東方の占星術学者らは、「ヘロデには言うな」という神託を受けて(2:12)密かに帰ってしまった。だからヘロデは、ベツレヘム一帯の該当児をすべて虐殺したのだ。

クリスマスの現場に辿り着き「学者たちは～喜びにあふれた(2:10)」。キリスト者もまた「メリークリスマス」と声をかけ合い、喜ぶ。そんな喜びのクリスマスに「冷や水」を浴びせかけるのが「嬰児虐殺(2:16)」の事件だった。責められるべきはヘロデ王だが、星の案内を最後まで見極めず、早々に王宮なんぞへ行った東方の学者らは、虐殺の契機をつくった(2:2)。ヘロデのように不安になったエルサレム市民(2:3)にも幾らかの責任があるのだろうか。起因、遠因、偶然の関連などを勘定に入れると收拾つかない。因果律の細い結び目を辿れば、世に生きる者すべてが虐殺につながる罪人になろう。

クリスマスは喜びであると共に「恐ろしい出来事」であった。父となるヨセフは夢で「恐れるな(1:20)」の声を聞き、母となるマリアは天使から「恐れるな(ルカ1:30)」と言われ、降誕の証人となる羊飼いらは「恐れるな(2:10)」と告げられ、恐れから反転した。ヘロデ王もクリスマスを恐れたが(マタイ2:3)、王には権力があり、それを手放して「救い」に向き直ることができず、恐怖に囚われて虐殺を実行した。

救いの現実は人間の「恐れ」を伴って到来した。生きている事のあらゆる恐れ、死ぬ事の未知なる恐れから自由になるクリスマスの「救い」は、ヘロデ王のためでもあった。だが王は恐れに呪縛され、「救い」を抹殺しようと躍起になった。「力」を持つほどに人の恐怖は増大する。その結果が膨大な数の嬰児虐殺であった(2:16)。恐怖心の何というおぞましさだろう。だから私たちは、いつでも沈黙し、耳を澄まして、夢での、天使の、聖霊による「恐れるな」の言葉を聞き逃さないようにしてみたい。

「主はこう言われる。ラマで声が聞こえる、苦惱に満ちて嘆き、泣く声が。ラケルが息子たちのゆえに泣いている。彼女は慰めを拒む、息子たちはもういないのだから(エレミヤ31:15)」。ラケルとは父祖ヤコブの妻で、その墓はベツレヘム周辺にあった(サムエル上 10:2)。預言者エレミヤは、バビロンへ連れ去られるイスラエルの民を目の当たりにして、墓から「ラケルが嘆いている」と預言した。「彼女は慰めを拒む(エレミヤ31:15)」。「慰め」とは何か。後代の救い主イエスの誕生だ(マタイ2:10)。しかしクリスマスの慰めをも拒む嘆きが生じた。クリスマスの栄光を喜ぶあまり、この嘆きの闇を忘れてはならない。

「こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。〔ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子供たちことで泣き、慰めてもらおうともしない、子供たちがもういないから〕(2:17~18)」。救い主が誕生し、ラケルの墓がある辺りの膨大な数の男児が殺された(2:16)。

生き延びた幼子イエスは、「慰めを拒む」激しい嘆きを負って、エジプトへの苦しい旅を経験した(2:14~15)。キリスト者は「ラケルの嘆き」やイエスの旅を、どう受け留めうるのか。私たちは救い主イエスと共に旅をする。己が罪を悔い改める苦しさはあっても、恐れに背を向ける、自由な救いの旅。

ラケルの激しい嘆き 幼子イエスの苦しい旅 私たちは自分の罪を見つめて その出来事に触れる
もはや傍観者ではない 私がその救いに遡るのではない あの嘆きと旅が 私たちに到来するのだ
あれよあれよとクリスマスが過ぎ、2025年最後の礼拝になります。今日は礼拝後に大掃除をします。
日程がつまついて恒例の餅つきは今年はお休み。2026年1/4の礼拝後に役員会を行います。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。